

アイランドシティ低炭素型都市ビジョン 骨子（修正案）

第1 策定の背景～地球温暖化の進行と地球温暖化対策

(1) 地球温暖化の進行とその影響

- 地球温暖化の進行 ー過去100年で0.74℃上昇ー
- 地球温暖化の影響 ー洪水被害の増加、光化学オキシダントに伴う死亡増加ー

(2) 地球温暖化問題に対する国際的な動向と我が国の取組み

- 国際的な動向 ー気候変動枠組条約締結ー
- 我が国の取組み ー地球温暖化対策推進法、京都議定書目標達成計画ー
- 我が国の現状 ー2008年度で1990年比1.6%増加ー

(3) 本市の取組みと現状

- 福岡市2011 グランドデザイン
- 福岡市環境基本計画、福岡市地球温暖化対策地域推進計画
- アイランドシティにおける取組み

第2 ビジョン策定の趣旨と理念

1 趣旨

- 平成21年12月に策定した「アイランドシティ事業計画」で、「国内トップレベルの低炭素型都市」を目指すこととした。
- 本ビジョンは、低炭素型都市の形成に関わる開発事業者、また、地域住民等に対し、国内トップレベルの低炭素型都市の具体的な将来像、及び、その実現に向けた中長期計画（ロードマップ）を示すため策定する。
- 本ビジョンでは、全体的な方向性を示し、個別の具体的事項については、必要に応じてデザインガイドラインや環境配慮指針などにより誘導等を行う。

2 理念

- 地球温暖化は1つの地域の問題ではなく、あらゆる国・地域で取り組むべき課題。アイランドシティでの低炭素型都市の形成は、本市他地域だけでなく、我が国における低炭素型まちづくり、また、今後都市化が進行するアジア等における低炭素型まちづくりの1つのモデルとなることを目指す。
- 低炭素型まちづくりにあたっては、CO2削減効果を最大化するため、建物などのハード面だけではなく、ライフスタイルの転換などソフト面での取組みも含めた、総合的な取組みを行う。
- まちづくりの本来の目的は、そこに住む人が豊かで暮らしやすい生活を実現することにある。低炭素型まちづくりにおいても、低炭素化に向けた取組みによる環境性の向上と、人々が生活し働く場としての快適性や経済性の両立を目指す。
- 他地域のモデルとなるためには、誰もが住んでみたいと思わせることが必要であり、美しく魅力的な低炭素型都市を形成する。
- そこで、アイランドシティにおける低炭素型都市形成の理念を以下のように設定する。

環境性・経済性・快適性を兼ね備えた
美しく魅力ある低炭素型都市の実現
～九州・日本・アジアにおける
低炭素型まちづくりの先導モデルを目指して～

- なお、少子・高齢化など環境以外の社会的要請にも適宜対応していく。

第3 ビジョンの対象地域と期間

1 対象地域

- まちづくりエリアの内、市5工区（約98.6ha）を対象とする。
- 取組みの内容によっては、アイランドシティまちづくりエリア全域、さらにはアイランドシティの周辺地域や本市他地域も対象とする。



市5工区エリア（本ビジョン対象地域） まちづくりエリア

2 期間

- まちづくりエリア完了時点（平成30年代後半）まで。

第4 低炭素型都市の実現に向けた取組み

1 取組みの基本的な考え方

(1) 自然との共生

アイランドシティにおいては、平成21年12月に策定した「アイランドシティ事業計画」において、まちづくりエリアのコンセプトを「都市活力の向上に挑戦するグリーンアイランドの創造～豊かな自然と共生する低炭素型のまちづくり～」と定め、グリーンベルトの創出や野鳥公園の整備といった「自然とふれあい、豊かな感性を育む環境共生空間」を創出することとしており、博多港開発(株)工区での環境共生のまちづくりを継承・発展させる形で自然と共生した低炭素型まちづくりを進める。

(2) 快適性や経済性と両立する環境性の高い先進的な取組みの導入

国内トップレベルの低炭素型都市実現のため、CO2削減効果の高い開発時点における最新の低炭素化の取組みを導入する。導入にあたっては、アイランドシティで生活する人々の快適性向上や導入費用に見合った効果が得られるかといった観点を考慮する。

(3) 地域特性を活かした取組みの推進

豊かな自然環境の海域に囲まれた島形式の埋立地であることや、新規開発エリアとして、住宅・建築物等の整備を契機として基盤整備を含む総合的・集中的な取組みが可能であることなど、アイランドシティの地域特性を活かした取組みを推進する。

2 低炭素型都市の実現に向けた分野別（「住宅・建築物」、「地域」、「交通」及び「環境活動」）の具体的な取組み（中期：5年後、長期：20年後）

分野	具体的な取組みの内容と「自然との共生」・「先進性」・「地域特性」		環境性	経済性	快適性等		
	内容	自然との共生・先進性・地域特性					
住宅・建築物	中期	○戸建住宅でZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）を導入	[先進性] ○最新の技術を取り入れた設備機器の導入や高断熱化〔自然との共生・地域特性〕 ○緑豊かな街並みであることを踏まえ、自然の風等を活かすパッシブ設計の導入	・建物使用時のCO2排出量がゼロに	・建設時の費用は割高となるが、その後の長期に渡る光熱水費の削減というメリットがある。	・断熱化により、建物内の居室による温度差が少なくなるため、快適性が増す。 ・高齢者にも優しい（ヒートショック防止）	
		○木材・リサイクル建材の利用等を推進	—	・木材の利用はCO2を吸収・固定化する効果があり、リサイクル材の使用は省資源化やCO2削減につながる。	・木材の利用は費用増を招くものではなく、リサイクル材についても、コストが過度に割高でないものを活用	—	
	長期	○戸建住宅でLCCM（ライフサイクルカーボンマイナス）。その他の住宅・建築物でZEH又はZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を実現	ZEHと同じ。	・建物使用時だけでなく、建築から解体までの建物のライフサイクル全体でCO2排出量がマイナスに	ZEHと同様	同左	
地域	中期	○全ての住宅・建築物でエネルギー使用量、CO2排出量を計測し、街区全体で「見える化」を実現	[先進性・地域特性] ○街区全体でのエネルギー使用量等の把握は全国でも例を見ない取組みであり、また、新規開発エリアとして実施が比較的容易	・見える化による省エネ意識の向上によりエネルギー消費量が削減	・エネルギー使用量等の計測のため、一定の機器の設置が必要であるが、光熱水費削減のメリットがある。	—	
		○風の流れを考慮した建築物等の配置	[地域特性] ○周囲に海に囲まれ、風の環境に恵まれている。	・エネルギー使用量の削減	・光熱水費削減	—	
	長期	○OPV付街灯など公共空間等における再生可能エネルギーの積極的な活用	[地域特性] ○これから開発を進めるエリアであり、既成市街地と比較して取組の実施が比較的容易	・系統電力を利用しないことによるCO2削減	・設置費用は割高となるが、運用時の電気代について削減が可能	・災害等による停電の影響を受けない。	
交通	中期	○EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリッド車）等の次世代自動車の積極的な導入促進（カーシェア含む。）	[地域特性] ○新規開発エリアとして住宅や公共空間への充電設備の設置を前提とした整備が可能	・エネルギーの面的活用はエネルギーの利用効率の向上等の効果がある。 ・エネルギーの地産地消はエネルギーロスの削減につながる。	・購入費用は割高となるが、利用時の電気代等はガソリン代と比較して安い。 ・カーシェアは車の利用頻度が少ない人にとって車を保有するより経済的	—	
		○EVバス導入に向けた実証実験誘致や試行運行の実施	[先進性] ○全国でも先駆的な取組み	・運行時のCO2の排出がない。	—	—	
	長期	○安全で快適な自転車を利用しやすい環境づくり	[地域特性] ○平坦な地形であり自転車の利用に適しており、自転車道の整備が進んでいる。	・自動車から自転車への移動手段の転換によりCO2削減につながる。	・自転車の利用は自動車と比較して経済的	・自転車道の整備により、走行時の快適性や安全性が増す。	—
		○全世帯・事業所でEV・PHV・FCV（燃料電池車）等の次世代自動車を利用	次世代自動車の導入に関する中期的取組みと同じ。	同左	同左	—	—
環境活動	中期	○住民等の意識の啓発・環境活動を支援する仕組みづくり	[地域特性] ○アイランドシティ周辺では、NPO等による環境活動が活発	・住民の環境活動はCO2の削減につながる。	・光熱水費の削減 ・その他、環境活動に対して経済的メリットを付与する仕組みの導入	—	
	長期	○環境学習、研究開発、人材育成、情報発信の拠点機能の整備	[自然との共生・地域特性] ○アイランドシティとその周辺には環境学習の素材となるものが豊富であり、環境活動も活発	・CO2削減など幅広く低炭素型都市の形成を推進	—	—	

第5 将来像－低炭素型ライフスタイル－

1 中期（5年後）のイメージ

- ・まちのイメージ（断面図・パースなど）
- ・生活のイメージ

2 長期（20年後）のイメージ

- ・まちのイメージ（断面図・パースなど）
- ・生活のイメージ

第6 低炭素化対策の実施による削減効果

1 中期的取組み（5年後）による削減効果

- ・○○%削減

2 長期的取組み（20年後）による削減効果

- ・○○%削減

第7 ビジョンの具体化に向けて

1 先導モデル事業の実施

- ・「CO2ゼロ街区」モデル事業に加え、今後も、住宅の開発契機などをとらえ、先進的なモデル事業を実施。

2 産官学並びに市民との連携の強化

- ・産官学並びに市民と連携したまちづくりを推進

3 継続的な検証と情報発信

- ・まちづくりの取組みを継続的に検証・評価し、次のまちづくりへ、また、まちづくりの取組み等を継続的に情報発信

4 取組みが継続・発展するための仕組みづくり

- ・まちづくり完了後も、導入した低炭素化の考え方や取組みが継続し、発展するような仕組みづくり

5 低炭素化に向けた住民、企業等の意識醸成

- ・低炭素化の効果の周知等による住民・企業等の意識の醸成

6 美しいまちなみ・景観の創出

- ・「アイランドシティ・デザインガイドライン」等による美しいまちなみの創出